

令和5年（2023年）度

事業報告書

自 令和5年（2023年）4月1日

至 令和6年（2024年）3月31日

公益財団法人 アジア学生文化協会

令和5年（2023年）度

事業報告

（2023年4月1日より2024年3月31日まで）

公益財団法人 アジア学生文化協会

1. 公益目的事業

日本とアジア諸国等の青年学生に対する国際相互理解の促進に関する事業

ア. アジア文化会館・学生寮運営事業

1960年のアジア文化会館(ABK)竣工時より外国人留学生のための宿舎として、来日当初からの受入れを行っている。留学生の宿舎事情は近年改善されつつあるが、日本語のままならない外国人には探しづらい状況は常に伴う。こうした外国人留学生に対し、安価で安心できる宿舎の提供は、我が国の留学生増加政策にとっても不可欠な要素でもある。

当協会で設置する学生宿舎は、「住居」とすると同時に、共同生活を通じて人間的交流を深め、国籍、民族、宗教を超えて友情を醸成するという「教育的目的」も合わせ持っている。そのため共同学寮には外国人留学生の他、日本人学生もアジアの青年の一員として受け入れ、自治会を構成して定期的なミーティングを開催し、相互理解を深めた。また、各寮には職員、チューター等を常住させ、日常生活、住環境整備、安全等のフォローに当たった。当協会の設置する学生寮の概況は以下の通りである。

● 共同学寮(アソシエイト寮)

日本人学生を含むアジア青年学生による共同生活及び自主的活動を通じた人格形成の場としての学寮の設置運営。

(各施設の詳細)

	施設名	在館/在寮生数(のべ) (所在地)	部屋代
1	アジア文化会館(Aフロア)	5名(男2名、女3名) (文京区)	38,000円(水道光熱費込)
2	新星学寮	17名(男5名、女12名) (文京区)	37,000円(水道光熱費込)
計	2施設	22名(男7名、女15名)	

● 留学生寮(レジデント寮)

留学生が安定して勉学生活を送るための学生宿舎の提供。日本での生活を安全にトラブルなく送れるよう、生活指導・サポートや文化、慣習、生活等のオリエンテーションを実施。

(各施設の詳細)

	施設名	在館/在寮生数 (所在地)	部屋代
1	アジア文化会館(Rフロア)	141名(男83名、女58名) (文京区)	25,000円～58,000円 (水道光熱費込)
2	染井ハイツ	23名(男11名、女12名) (豊島区)	25,000円～75,000円(水道 光熱費7,000～10,000円)
計	2施設	164名(男94名、女70名)	

● 寮の運営

1. 宿舍・寮における感染予防対策

新型コロナウイルスが第5類に移行。これまでの感染予防対策を見直し、次の対応を行った。

- ・館内でのマスク着用は自由とし、入館者の体温チェックのために設置したサーモカメラを撤去。
- ・地下ホール、ロビーでは、テーブルの配置や椅子の数をコロナ前に戻し、寮生同士が対面で交流できるようにした。
- ・手洗い、消毒などの基本的な感染予防対策は継続して行った。

2. 寮生のサポート

- ・新型コロナウイルス 11 名、インフルエンザ 5 名の感染が確認された。体調不良者に発熱があり、簡易検査キットで陽性が確認された場合は、発症の翌日から 5 日間自室で療養。共用設備については特定の場所を指定して、感染が広がらないようにした。
- ・感染症以外の体調不良、寮内での様々なトラブルや問題などについては、日本語学校をはじめ、関係部署やチューターの学生とも連携しながら対応を行った。

3. 防災対策

- ・大地震などの災害に備え、2022 年度から防災備蓄計画をスタートした。具体的には、1 人あたり 3 日分、約 250 名分の備蓄を 3 年間で整備する。2 年目となる 2023 年度は、1 人 1 日分の食料や水、非常用トイレなどを備蓄した。
- ・2023 年度もオンラインで防災訓練を行った。

4. 学寮所在地域（文京区）の国際交流及び連携

- ・新型コロナウイルスの影響により、中止となっていた盆踊りが再開。東京後楽ロータリークラブからは、留学生へ浴衣が贈呈された。
- ・留学生が情報を持ち合って独自の地図を作る企画を初めて行い、今回はアジア文化会館を中心とした東京近郊の地図が完成した。

イ. 日本語教育事業

1983 年より始まった日本語教育事業は、宿舍に住む日本人学生や先輩留学生が大学進学を控えた留学生にボランティアで実施した補習教室がその前身である。当事業では留学生が本来の勉学目的を達成できるよう、集中的で密度の濃い日本語教育を実施。同時に各国の学制の違いやシラバスの違いから起こる学歴・学力の平準化のため、英語・数学・物理・化学・社会の基礎科目授業も実施してきた。

日本における大学及び専門学校の受験資格要件では、12 年の学校教育修了が求められるが、これらの基礎科目授業を実施する「留学生日本語コース 大学進学準備 1 年課程、および 1.5 年課程」は、1999 年に文部科学省より「準備教育課程」の認可を得ており、後期中等教育修了時で学歴が 12 年に満たない学制の国からの留学生（マレーシア 11 年など）でも、当課程を修了することにより、不足分の学校教育学歴が補完され、大学及び専門学校の受験資格が付与される。

一方、校舎として建物を耐震化する必要や準備教育課程を学校法人として実施すべきとの長年の課題があり、2014 年、本協会が母体となり協会敷地内に新校舎を建築、学校法人 ABK 学館 ABK 学館日本語学校を設立した。これにより公益法人移行時の計画に沿って本協会の日本語教育事業を全面的に ABK 学館日本語学校へ統合することとした。しかし、2019 年度の末から始まった新型コロナウイルス禍（海外からの入国禁止措置等）を受けて計画の延期をせざるを得なくなった。

2023 年度初頭より、新型コロナウイルスの 2 類感染症から 5 類感染症への移行により、海外から日本への入国制限が撤廃されたことから留学生の来日も可能となり、再度日本語教育事業の統合計画を進めることとなった。ABK 学館日本語学校は文部科学省より 2024 年 1 月に準備教育課程の認可を受け、2024 年度 10 月生より ABK 学館日本語学校において準備教育課程を開設することとなった。

2023 年度に取り組んだ主な項目は以下の通りである。

- ① 新型コロナウイルス感染予防対策が大幅緩和されてから、授業は対面形式で実施した。
- ② 学校行事についてコロナ禍前の実施水準に戻した。4月10月の入学式や3月の修了式もすべて対面形式で実施。8月に卓球大会を開催。12月にJクラスの学生が日光へ日帰りバス研修旅行。12月から翌2月にかけてDクラスの学生が東京都内の博物館等の施設へ校外見学。Jクラススピーチコンテストを日本マレーシア倶楽部の協賛で3月に開催。
- ③ 2023年10月「大学進学日本語課程10月コース」閉鎖を申請、2024年1月に受理。3課程から2課程へ、学生定員も160名から120名へ変更が完了。

● **課程及び修業年限**

課 程	入学 期日	修業 年限	学生数	授業時間数
留学生日本語コース 大学進学準備1年課程 (基礎教科は文科系と理科系に分かれている。また、必修の基礎教科修了後、選択で基礎教科を受講することができる。)	4月	1年	22名	40週/年 (必修) 日本語 790時間 日本事情 40時間 基礎教科 120時間 (選択) 基礎教科 136時間
留学生日本語コース 大学進学準備1.5年課程 (基礎教科は文科系と理科系に分かれている。また、必修の基礎教科修了後、選択で基礎教科を受講することができる。)	10月	1.5年	30名	60週/1.5年 (必修) 日本語 1,290時間 日本事情 40時間 基礎教科 120時間 (選択) 基礎教科 136時間
計			52名	

● **学費等**

課 程	学費	
留学生日本語コース 大学進学準備1年課程	出願料	20,000円
	入学金	95,000円
	授業料	720,000円
留学生日本語コース 大学進学準備1.5年課程	出願料	20,000円
	入学金	95,000円
	授業料	1,080,000円

● **当コース受入学生進路等の状況**

当年度 在学生の人数および進路一覧

国・地域	大学学部		専門 学校等	転校 その他	帰国	2024年度 継続	計
	国公立	私立					
カザフスタン	0	1	0	0	0	0	1
タイ	0	0	0	0	0	1	1
トルコ	0	1	0	0	0	0	1
中国	1	1	0	0	0	0	2
日本	0	2	0	0	0	0	2
マレーシア	9	23	4	1	3	0	40
モンゴル	0	1	0	0	0	0	1
小 計	10	29					
合 計	39		4	1	3	1	48

ウ. アジアセミナー事業(休止中)

2023 年度も引き続き休止とした。

エ. 広報・企画事業

広報誌発行

広報誌「アジアの友」は、協会設立当初の 1958 年 9 月に機関誌として刊行された。本誌には、当財団の活動、留学生の実態、留学生の声、また留学生の帰国後の社会活動等について掲載すると同時に留学生関連有用情報の提供等行っている。配布先は主として、当財団会員・関係先、留学生関連団体、大学、専門学校、日本語学校、国際交流団体、図書館、政府等関係機関、留学生等に配布し、日本社会における留学生理解を深める努力を払ってきた。また、既刊本はホームページでも公開した。

● アジアの友の刊行

広報誌名	発行	発行部数	頒布先
アジアの友	4 冊： 第 554～557 号	各 600 冊	大学、国際交流関連団体、地方自治体、留学生他

第 554 号：特集 国際教育協力のベスト・プラクティス 泰日経済技術振興協会(TPA)と穂積スピリット 黒田一雄×白石勝己/TPA50 周年記念式典での基調講演/海外の日本語教育機関(ラオス)/新星学寮での生活/連載コラム(TNI) /知友会通信他

第 555 号：どう変わる!?日本語教育/訃報 小木曾友前 ABK 理事長ご逝去のお知らせ/BOOK REVIEW/新星学寮での生活/私の意見私の体験(ベトナム)/連載コラム(TNI) / 知友会通信他

第 556 号：巻頭 専門学校外国人留学生の就職促進プログラムの運用開始/新星学寮での生活/私の意見私の体験(マレーシア)/連載コラム(TNI)/ 知友会通信他

第 557 号：特集 技能実習制度/新星学寮での生活/私の意見私の体験(タイ)/知友会通信他

2. 収益事業

国際教育交流の支援に関する事業

ア 留学生情報、日本語教育等に関する情報提供、編集、出版

● インターネットによる日本留学情報の提供

- 海外から日本留学を目指す人たちに日本留学に関するあらゆる情報をスムーズに提供できるよう日本留学総合情報サイト「JAPAN STUDY SUPPORT」を構築し、8 言語（日本語・英語・韓国語・中国語（簡体字・繁体字）・ベトナム語・インドネシア語・タイ語）で提供、運営した。
- 同サイトにて大学院、大学学部等の学校データベース情報、および奨学金情報等のコンテンツを更新した。
掲載数：大学院 560 大学、大学学部 630 大学、短期大学及び専門学校 167 校、奨学金 139 件
- 同サイト「ニュース」ページを更新した。
- 同サイト「日本留学お役立ち情報」ページを更新した。
- 同サイトの運営はベネッセコーポレーションとの共同運用で行なった。
有料掲載大学・大学院・短期大学 54 校

● 調査・出版による大学入学情報の提供

- 日本留学総合情報サイト「JAPAN STUDY SUPPORT」の大学学部データから、書籍版『私費外国人留学生のための大学入学案内』を編集・発行した。
- B5 版 443 ページ 掲載大学数 465 発行部数 1,110 部 価格 2,300 円(税抜)/1 冊

イ 大学、奨学財団等からの業務受託

● 大学・財団等からの業務受託

- ・ 大学の外国人留学生願書受付処理に係る業務の受託
2 大学約 1,740 件
- ・ 大学の外国人留学生出願資格、学歴判定に係る業務の受託
10 大学約 210 件

ウ 国際交流・地域団体等への事務所賃貸、研修室貸与

● 事務所賃貸

- ・ 一般社団法人日タイ経済協力協会、一般社団法人日本百賢アジア研究院、特定非営利活動法人アジア・コミュニティ・センター21、特定非営利法人ベトナム子ども基金など国際交流団体や法人等への事務所の賃貸。

● 研修室貸与

- ・ 研修室貸与にかかる運営体制と人件費を見直し、原則として外部団体への研修室貸与は行っていないが、関係団体については要望に応じて貸与を行った。

3. 法人事務

● 会員制度

- ・ 公益財団法人としての認知度を高め、広く個人・諸団体からの支援を得ることを目的とし、会員制度を運用した。本年度も新規入会会員よりも会員の高齢化による減少が多く、会費収入が低迷している続いた。さらに何らかの工夫が必要である。

● その他

- ・ 日本語教育事業の学校法人 ABK 学館への移行統合による廃止、また、アジアセミナー事業の廃止に向け、内閣府公益認定等委員会に相談を行なった。

令和 5 年度事業報告には、「一般社団法人及び一般財団法人に関する法律施行規則」第 34 条第 3 項に規定する附属明細書「事業報告の内容を補足する重要な事項」が存在しないので作成しない。

令和 6 年 5 月

公益財団法人アジア学生文化協会